



## ⑤ 吹出アタッチメントの据付

吹出アタッチメントの据付 ← 本機を吊り下げる前に行ってください。

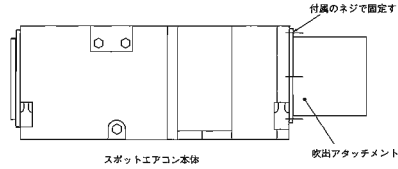
(別売オプション)

吹出アタッチメントを付属のネジでスポットエアコン本体に固定する。

AT80 12ヶ所  
AT112 12ヶ所  
AT140 12ヶ所

吹出アタッチメント、吹出ダクト取付関係

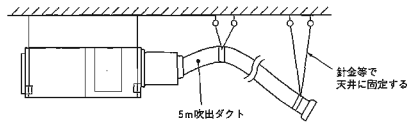
1	ネジ (M4)	12個	吹出アタッチメント固定用
2	ネジ (M4)	AT80 → 12個 AT112 → 16個 AT140 → 24個	吹出ダクト固定用 (別売)



## 吹出ダクトの据付

(別売オプション)

- 吹出しダクトは、吹出アタッチメントに付属されているねじを使用して固定してください。
- 吹出しダクトはフレキシブルになっていますので、自由に曲げて、好みの場所へ吹出し口を向けてください。なお、吹出しダクトは伸縮性もあり、引張ると約1.5倍の長さになります。
- 5mの吹出しダクトをご使用の場合は、安定性がありませんので、針金等で天井から固定し、ふらつき防止してください。
- ダクトには断熱を施し、吹出温度の上昇を防いでください。また露がダクト表面につき落下することがあります。特に曲げ部分は気をつけてください。



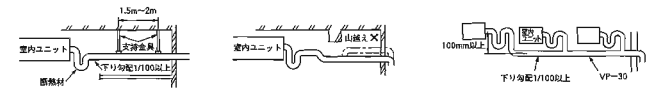
## ⑦ ドレン配管

### ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
- 不確実な場合、室内に漏水し、床湿等を招く原因になることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが浸入し、中毒や酸素欠乏による恐れがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起らないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。試運転時に排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。

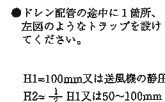
### 作業手順

- ドレン配管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
- ドレン配管を接続する場合はユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- ドレン配管は下勾配(1/50~1/100)とし、途中山越えを作らないようにしてください。
- 複数台のドレン配管の場合、下図のように本体ドレン出口より100mm以下に集合配管がくまるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。
- 室内にある硬質塩ビパイプは必ず保護してください。
- ドレン配管の出口は臭気発生を恐れのない場所に施工してください。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが浸入する恐れがあります。



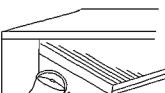
### (トラップの施工)

ドレン排出口が負圧となる位置にありますのでドレン管の水面上昇による水漏れを防ぐため設計上、トラップを(配管工事のとき)1箇所設けてください。トラップは掃除が可能な構造とすることが必要です。下図に示すようにT形継手を使用してください。またトラップの高さも下図の構造法としてください。トラップはユニットの近くに設けてください。



### 排水テスト

ドレン配管工事が完了したら、水を流して確認してください。○サイドパネルをはずし、ドレンパンに1000ccの水を徐々に入れ、スムーズに排水することを確認してください。又、水漏れのないことをご確認ください。



## ⑧ 冷媒配管

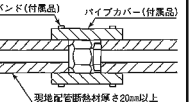
### 冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
- 冷媒R22で使用していた既設配管を使用する場合は、下記点に注意してください。
  - ・フレアナットは製品に付属されているもの(JIS第2種)に交換してください。またフレア部は新たにフレア加工してください。
  - ・室内配管の使用は避けてください。
- 冷媒配管は、リン酸銅合金全線目無銅管(C1220T、JIS H 3300)をご使用ください。また管の内外面は美観であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等(コンタミ)の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内面にコンタミの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。
- R410A以外の冷媒は使用すると、冷凍機油劣化等の原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破損等の原因になります。
- 据付けに使用する配管は室内に保管し、両端とろう付けする直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。

### 作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。
  - ※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません)
- 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
  - ※配管の曲げはできる限り大きな半径で行い、曲げおしを何回も行わないでください。
  - また、配管をねじったり、つぶしたりしないでください。
  - ※フレア接続は、以下のように行ってください。
    - ・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。
    - ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで右側の締め付けで締めてください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
  - ガス側配管、液側配管とも断熱は完全にしてください。
  - ※断熱材は断熱ししないと結露し水漏れします。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

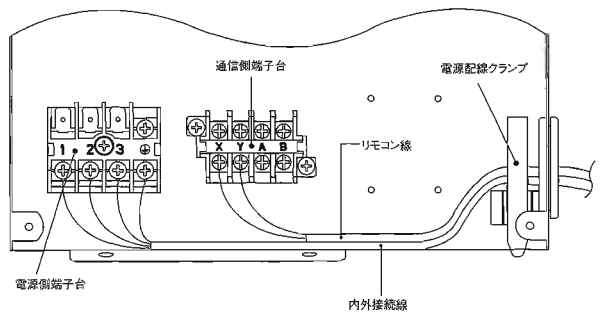
パイプ径	耐力力 N・m
φ6.35	14~18
φ9.52	34~42
φ12.7	49~61
φ15.88	68~82
φ19.05	100~120



## ⑨ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」[内線規程]及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 電源配線と通信配線は同一経路を造らないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

- 電気線の露(ぬじり)を取外し、上部の引掛を外してください。
- 各配線をユニット内に入れ、端子合に確実に接続してください。コントロールボックスの裏に貼付の接続終極参照してください。
- 各配線をクランプで固定してください。
- 取外した部品を完通りに取付けてください。



## ⑩ ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていますか。	冷えない	